



学校だより  
ながや

令和3年度 2月号  
令和4年 1月31日  
横浜市立永谷小学校  
校長 平野 好子

多くの方に支えられて

副校長 菅原 明子

暦の上では、もうすぐ立春を迎えます。寒い日が続いていますが、樹木の冬芽も膨らみ始め、春への準備が着実に進んでいることが感じられます。

しかし、私たちの生活においては、本県にも1月21日から、まん延防止等重点措置が適用されました。現在も新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。今、この状況に歯止めをかけるために私たちにできることは、日々の感染症予防対策をしっかりと行っていくことしかありません。

保護者の皆様には、登校にあたっての検温や、健康観察等、本校の感染症予防対策にご協力いただき、心より感謝申し上げます。朝、電話で保護者の方とお話をさせていただくときにも、各ご家庭のご協力に支えられて本校の教育活動が継続されていることを日々、感じております。

この1年間を振り返りますと、本当にたくさんの地域・保護者の方々に本校の教育活動を支えていただいていることに思い至ります。暑い日も寒い日も雨の降る日も笑顔で子どもたちの安全を見守ってくださっている学援隊の皆様。子どもたちの安心・安全のために学びの場を創ってくださったこうなん防犯寺子屋隊の皆様やスクールサポーターの有川さん。体験を通した学びのために講師として来校してくださった多くの方々…。

PTA活動におきましても、教室のカーテンの洗濯を計画的に行ってくださった学年委員さん、オンラインによる企画を進めてくださった企画委員さん、広報誌「ながや」の発行に携わってくださった広報委員さん、旗振り活動を支えてくださっている校外委員さん、そしてPTA各委員会および、学校行事や教育環境整備等のサポートをしてくださっている運営委員会の皆さん。困難な状況下においても歩みを止めることなく、活動を推し進めてくださっていました。

「しつぷう疾風にけいそう勁草を知る」という言葉があります。この意味は、速く激しく吹く風（疾風）が吹いたときにこそ初めて、それに負けない強い草（勁草）を見分けることができるということ。そこから、困難や試練に直面したときに、初めてその人の節操や意思の強さが見えてくるという意味で使われています。現在、新型コロナウイルス感染拡大の中、私たちは、まさに疾風の中にいます。その中で、子どもたちの成長のために本校教育活動を支えてくださっている永谷小学校の地域・保護者の皆様、お一人ひとりが「勁草」であるといえるのではないのでしょうか。

教職員一同、多くの方に支えられていることへの感謝の気持ちを胸に子どもたちのためのよりよい学校づくりに取り組んでまいります。

今後とも地域の方々、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。